

『イオン導入の無料実演講習会』承ります

日本全国どこでも(離島は除く)出張講習いたします。

【予約受付中】お申し込み・お問い合わせはTEL.0120-31-6588へどうぞ。

I.T.O.ユーザーズミーティングのご案内

第26回 日本美容皮膚科学会

2008年8月30日(土)・31日(日)

リーガロイヤルホテル(大阪) 特別ルームにて
I.T.O.ユーザーズミーティング開催

●企画内容●

- ①院内化粧品製剤の作り方の実技講習
- ②イオン導入の実技講習
- ③最新化粧品原料の展示とビデオ講習
- ④I.T.O.製品サンプル、DVDの無料配布
- ⑤美容ドリンク、サプリメントのOEMご相談承り
- ⑥少ロット化粧品のOEMご相談承り

※内容は変わることもあります

I.T.O. 本年度(2008年度)学会出展のご案内

8月30日(土)・31日(日)

日本美容皮膚科学会総会 大阪(リーガロイヤルホテル大阪)

10月5日(日)~10日(金)

国際化粧品化学者会(IFSCC) バルセロナ

10月11日(土)・12日(日)

日本美容外科学会総会 広島(リーガロイヤルホテル広島)

10月12日(日)・13日(月・祝)

日本皮膚科学会中部支部大会 名古屋(名古屋国際会議場)

10月18日(土)・19日(日)

日本皮膚科学会西部支部大会 福岡(ホテルニューオータニ博多)

11月4日(火)~7日(金)

国際化粧品展示会(IN COSME) バンコク

マクロファージを活性化させアトピーなどのI型アレルギーを抑制する小麦発酵抽出物
世界初のお肌のための免疫バランス剤、ソマシー

ポテンシャルの高い新スキンケア素材です(化粧品原料)

ソマシーの特徴

ソマシーは元々、マクロファージを活性化させる物質として、小麦粉の洗浄液中から発見されました。研究の結果、食用植物の共生細菌パントエア・アグロメランスの細胞壁構成成分(特殊な構造を持つ糖脂質)が生理活性物質の本体と判明し、IP-PA1と名づけられ、これが

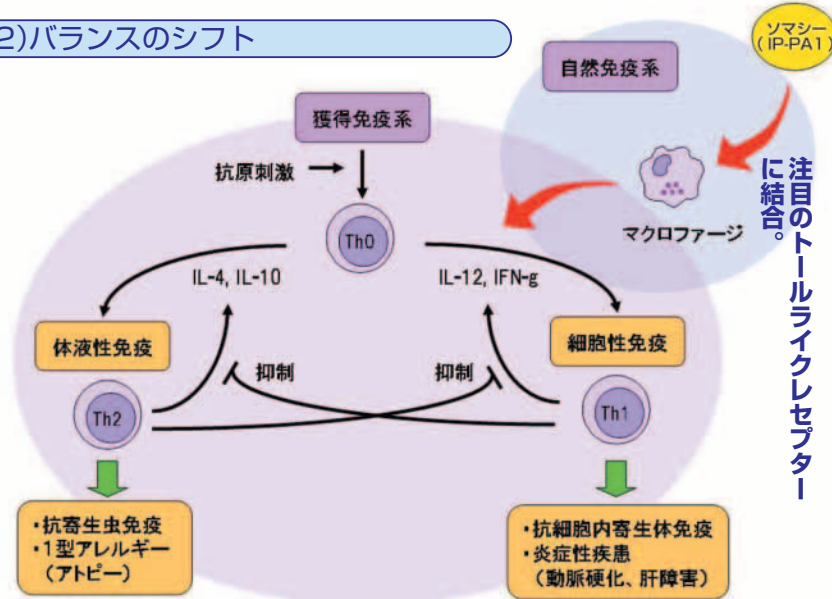
化粧品原料のソマシーとなったのです。

ソマシーには、生体の新陳代謝に関わり感染防御や創傷治癒を行うマクロファージを活性化させる働きがあります。ですからトラブル肌にも優しく深く浸透し、ダメージから回復させる効果を期待できます。

免疫系(Th1/Th2)バランスのシフト

特殊な糖脂質構造と免疫バランス調整の力

ソマシーは、ヒト試験においてアトピーや火傷、ヘルペス等の皮膚疾患に適用され、症状改善の結果を得ており、また保湿効果の点でも評価されています。これは、ソマシーの特殊な糖脂質構造によるものと考えられます。親水性の鎖状になった糖質(糖鎖)と、親油性の脂質から成り、両親媒性という特徴があるのです。このため、ソマシーは皮膚への吸収性に優れ、微量で高い効果を上げられます。ソマシー配合の化粧品は、皮膚内部に容易に浸透し、マクロファージを活性化させることができます。ソマシーによって活性化されたマクロファージは、細胞性免疫系を活性化させて、アトピー性皮膚炎患者等に見られる過剰に高まった体液性免疫系を抑制し、結果的に健康な免疫バランスに調整する働きを持っているのです。



株式会社 アイ・ティー・オー
〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-6-7-3F
Tel 0422-60-3434 Fax 0422-60-3435

Tel 0120-31-6588
E-mail ito@provitamin.jp

クリニックで活用されたい場合は追加でお送りいたします。

http://www.provitamin.jp

真夏肌も要注意! 乾燥の原因は UVと汗と冷房だから...

蒸し暑い梅雨、猛暑日や熱帯夜が続く盛夏。さっぱり感ばかりを求めるスキンケアをしていませんか? 湿度が高いせいもあって肌の乾燥に気づかないまま過ごしている方は、要注意です。実は今ドライスキンの原因は、夏場にも意外なほど多いのです。秋口になって荒れた肌に愕然とすることのないように、夏だからこそその乾燥対策を考えてみましょう。

夏の肌の大敵は3つ

■ 紫外線が機能を低下させ、汗や冷房が潤いを奪う ■

暑い季節の日々の暮らしを振り返ってみてください。寝苦しい夜が明けたら、まずは頭と体をすっきりさせたくて洗顔やシャワー。外出時にはUVカットの化粧品とファッションでしっかり防御。それでもジリジリと肌を焦がす陽射しで大汗をかく。そうかと思えば室内や乗り物の中はエアコンが効いて、時には快適を超えて肌が粟立つほどの涼しさ。家に戻ると、汗と何度も塗ったUV化粧品でベタベタの顔や体をさっぱりさせるために洗顔や入浴。こんな1日はずですが、だとしたら肌は確実に乾燥の危険にさらされています。

防ぎきれない紫外線は、肌のバリ

ア機能や水分保持機能にダメージを与えて、荒れを引き起こします。また、肌の角質細胞にある天然保湿因子(NMF)は、汗や、それを洗い流すための洗顔やシャワーの水に溶け出して失われてしまいます。しかも冷房は室内の湿度を極度に低下させるため、これによっても肌の水分は奪われます。冷房の効いた部屋に入って1時間後には、肌の水分量が1/4にまで減少してしまう、というデータもあるほどです。

■ 基本に忠実な保湿ケア

■ パッティングやマスクで潤い補給、輝く夏肌に ■

では、そうした夏の乾燥肌対策はといえば…手抜きせず基本に忠実に、が一番。洗顔やシャワーはどうしても回

数が増えますから、肌に必要な水分や皮脂を除き過ぎないことが大切です。クレンジングは優しく、汚れだけを浮かせながら。ソープ類は十分泡立てて肌に載せ、こすらずに洗い落とすようにしましょう。

ローションは冷やして使うと気持ちいいですね。手に取るよりも、コットンにたっぷり含ませてパッティングします。パッティングの後、そのままマスクのように肌に置き、ひんやりするまでリラックス、というのもおすすめ。マスクシートを使ったパックなら、さらにベターです。

ローションで水分補給した後は、美容液で栄養を与えて肌機能の回復を促します。暑いからと油分を避けるのはNG。水分を逃がさず潤いをキープするためには、ジェルやクリームステップも必要です。

ご紹介いたします! 最新保湿3素材

new moisturizer

マリンラフィー油、セラミド10、NVA

アレルギーで皮膚のバリア機能は低下し、過酷なピーリングで角質層が薄くなり、洗顔のし過ぎで皮脂が減少し、お肌の乾燥化傾向は進んでいると言わざるを得ません。そんな中で、より有効性の高い保湿化粧品に対するニーズが増え、新しい保湿剤原料が次々と開発されています。この夏の最新・最先端原料を、機能別に3つ、ご紹介いたします。

保湿の3要素は、皮脂膜、NMF、細胞間脂質

ヒトの肌における保湿の3要素といえば、皮脂膜と天然保湿因子(NMF)と細胞間脂質。それぞれの働きが補い合っており、肌の潤いが守られています。

皮脂膜は肌の最表面にあって、肌内部から水分が蒸散しないよう守り、同時に外部から有害物質や微生物等が入るのを防ぐバリア機能も果たしています。NMFは角質細胞の中に水分をしっかり抱き留める役割を担っています。細胞間脂質は、そのラメラ構造の中の親水部分に水分を保持し、また免疫調整の働きも持っています。これらはいずれも、肌の表皮部分にあります。

これに対して、より内部の真皮部分はコラーゲンが主成分で、表皮と、そのターンオーバーのシステムを支えるために水分や養分を補給し、また肌の張りや弾力を保つ構造になっています。

肌の乾燥というのは、そうした肌内部のさまざまな要素の機能が失われ、水分量が減少した状態のこと。つまり保湿のためには、ただ外から水分を補うだけでなく、失われた機能に代替す

る物質を与えて、補給した水分が長時間にわたって保持されるようにする必要があります。

ヒトの皮脂に類似したマリンラフィー油

新しい保湿成分としてご紹介する最初の物質は、皮脂膜の機能を補うもので、マリンラフィー油という名です。すでに商品化されています。マリンラフィー油は、ニュージーランドの深海に棲息するヒウチダイから抽出された物質です。強い陽射しの下で働く現地の漁民たちは、古くからこのオイルでスキンケアしていたといえます。

皮脂の主成分のひとつがワックスエステルで、これを代表するオイルという今まではホホバ油が挙げられてきました。マリンラフィー油は、同様にワックスエステルを主成分とする新素材。ただし詳しい分析を行うと、炭素数にバラツキや偏りがあるホホバ油と比べて、マリンラフィー油は、その構成成分がはるかに幅広く万遍なく、ヒトの皮脂に類似しています。

このことから、乾燥肌ケアへの適性・安全性は非常に高いと思われます。皮脂膜に代わって保湿機能・バリア機能を果たすことが期待できます。

人体と同様の光学活性セラミド10だから馴染む

ご紹介したい新保湿成分の2つめは、光学活性セラミド10です。角質細胞をレンガに見立てた角層モデルの、モルタル部分に当たる細胞間脂質は、成分の50%がセラミドです。皮膚の保湿に果たすその役割の大きさは、30数年前から知られていました。従来その角層遊離セラミドは、スフィンゴシンと脂肪酸の組み合わせによって7タイプに分類されていたのですが、近年の分析技術の進歩により、10タイプまで分類できるようになりました。そしてその10番め、つまりセラミド10が、合成できるようになったのです。

セラミド10は、角層での代謝の途中で出てくるセラミドで、各タイプのセラミドに変換される前駆体。必

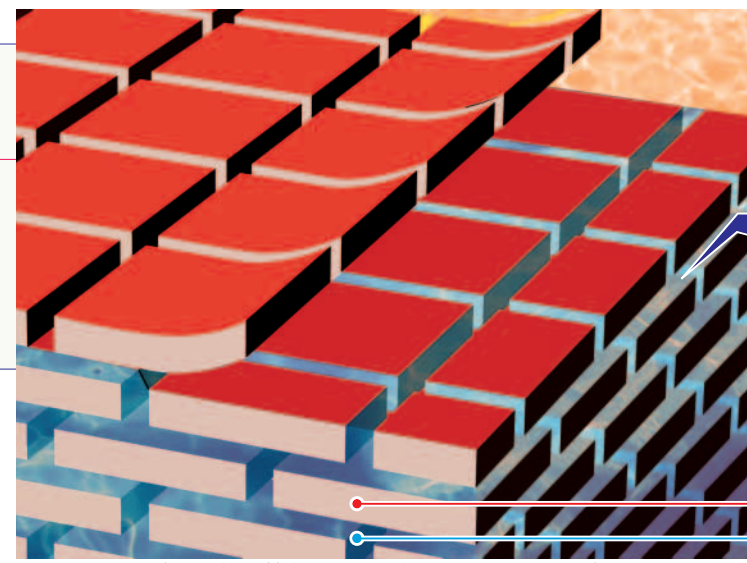
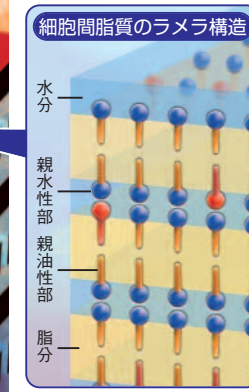


図3: 角層モデル図(角質細胞:レンガと細胞間脂質:モルタル)



細胞間脂質のラメラ構造
水分
親水性部
親油性部
脂分

要に応じて各種セラミドに変わっていく性質を持っています。人それぞれに不足しているセラミドの種類は異なりますが、セラミド10なら、そうした個人差をカバーして、さまざまな種類のセラミド不足を補えるものと思われます。

セラミド10のもうひとつの特徴は、光学活性を有していることです。ヒトの体はL-アミノ酸、D-糖といった光学活性のある物質から成っています。皮膚の角層にあるのも、2S,3R体という光学活性のあるタイプのセラミドだけ。ですから現在、多種多様に出回っている合成セラミドの中でも真の効果を発揮できるのは、やはり光学活性のあるセラミド10で、その生体への適合性は非常に高いと期待されています。

臨床におけるテストでも、本来持つべき水分保持機能、バリア機能を失った皮膚に対してセラミド10を外用することで、それらの機能をすばやく回復させることができる、という結果がすでに出ています。

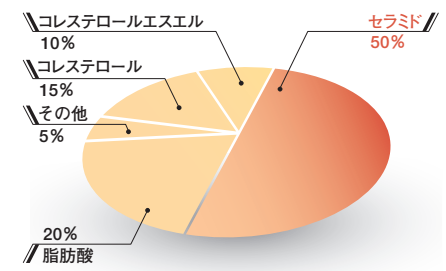


図4: 細胞間脂質の成分組成

真皮の線維芽細胞に働き張り・弾力をupさせるNVA

もうひとつの新素材は、表皮の水分保持だけでなく、皮膚そのものの代謝を高め、張りや弾力の回復に効果を上げるもの。天然トウガラシに含まれる成分の1つで、ノニル酸パニルアミド(NVA)という物質です。

NVAは、全身の知覚神経終末を刺激してCGRP(カルシトニン遺伝子関連ペプチド)を放出させ、これによってIGF-1(インシュリン様成長因子)の産生を促進させます。

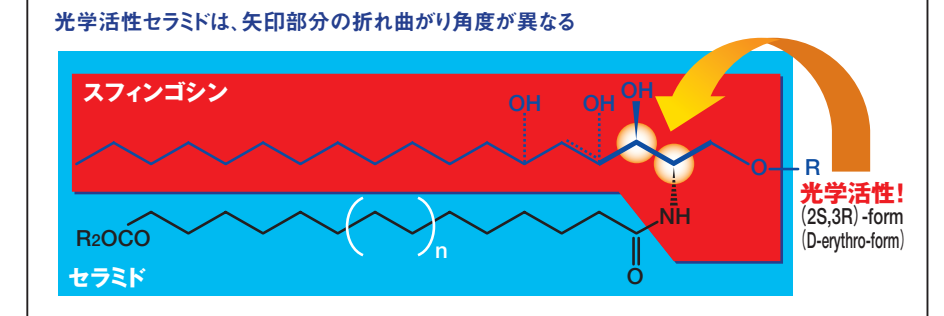


図5: 光学活性セラミド

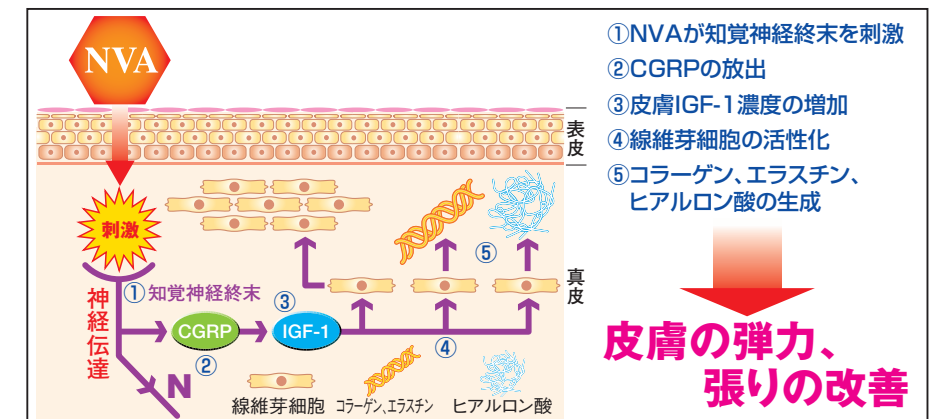


図6: 皮膚に対するNVAの作用

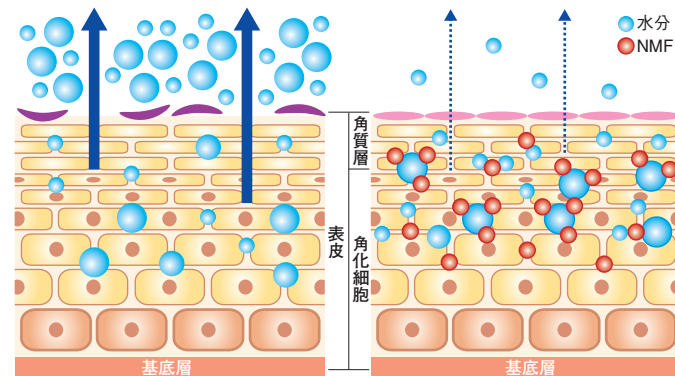


図1: 表皮の水分保持メカニズム (NMFの働き)

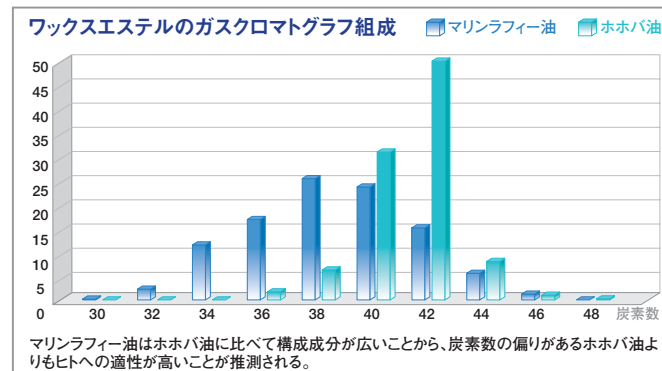


図2: マリンラフィー油とホホバ油の違い